

(有)瀬口建築設計事務所 様

地盤調査報告書

調査名 : 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基礎・実施設計

平成26年11月 日

実 施

九 州 探 泉 株 式 会 社



(有)瀬口建築設計事務所 様

調 査 名 : 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基本・実施設計

今 般 御 下 命 を 戴 き ま し た 表 記 調 査 に
つ い て そ の 経 過 及 び 結 果 を 下 記 の と
お り 御 報 告 致 し ま す 。

平成 26 年 11 月 日

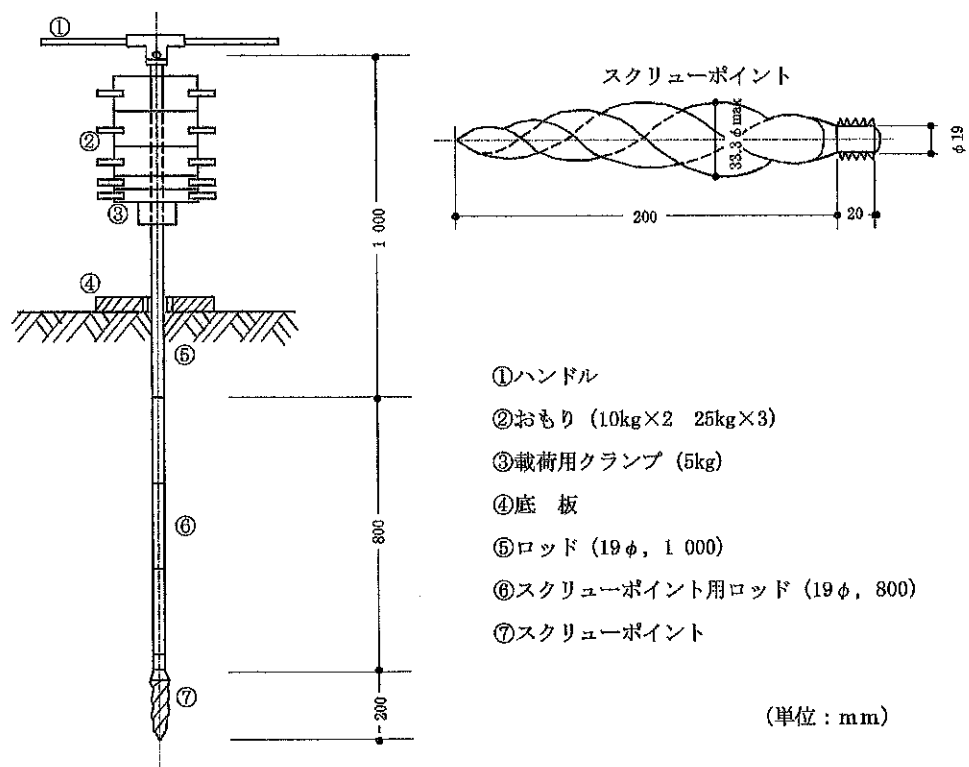
1. 地盤調査概要

- * 調査名称 : 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基本・実施設計
- * 調査場所 : 福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3
- * 調査日 : 平成 26 年 11 月 27 日
- * 調査目的 : 建物の建築
- * 調査種別 : 静的(連続)貫入試験
- * 調査方法 : スウェーデン式サウンディング法 (JIS A1221-76)
- * 調査数量 : 1宅地 4試験点
- * 注文者 : (有)瀬口建築設計事務所
- * 実施者 : 九州探泉株式会社
地質調査技士 第20006号 中島 剛
- * 使用機械 : スウェーデン式サウンディングマシン×1式, 脚立×1, カート×1, ジャッキ×1, チェンブロック×1, メジャーテープ×1, 図板×1, カメラ×1, 工具×1, 小型トラック 他
- * 使用材料 : 雑材料(番線, ウェス, オイル, グリース, 小角材, フィルム等)若干量
- * 作業者数 : 技術者 延1名 助手 延1名 合計 2名
- * 調査記録 : 別紙の「調査結果記録」及び「現場写真」等参照
- * 地質名 : 砂質土・礫質土
- * 含水状況 : No.1、No.3、No.4 … 少 ・ No.2 … 多い
- * 地下水位 : No.1 … 無 ・ No.2 … -1.10m
No.3 … 無 ・ No.4 … 無

2. 調査概要

スウェーデン式サウンディング試験

この試験は、J I S A 1 2 2 1 規格されており、原位置における静的貫入抵抗を測定し、その硬軟若しくは締まり具合、又は土層の構成を判断する試験として、小規模建築物の調査に広く利用されている。



スウェーデン式サウンディング試験機具

3. 地 質 概 要

当地は、「福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3」にあり、現況は畑として使用されている。

この付近を地質的に見ると、沖積層の分布帯に位置している。

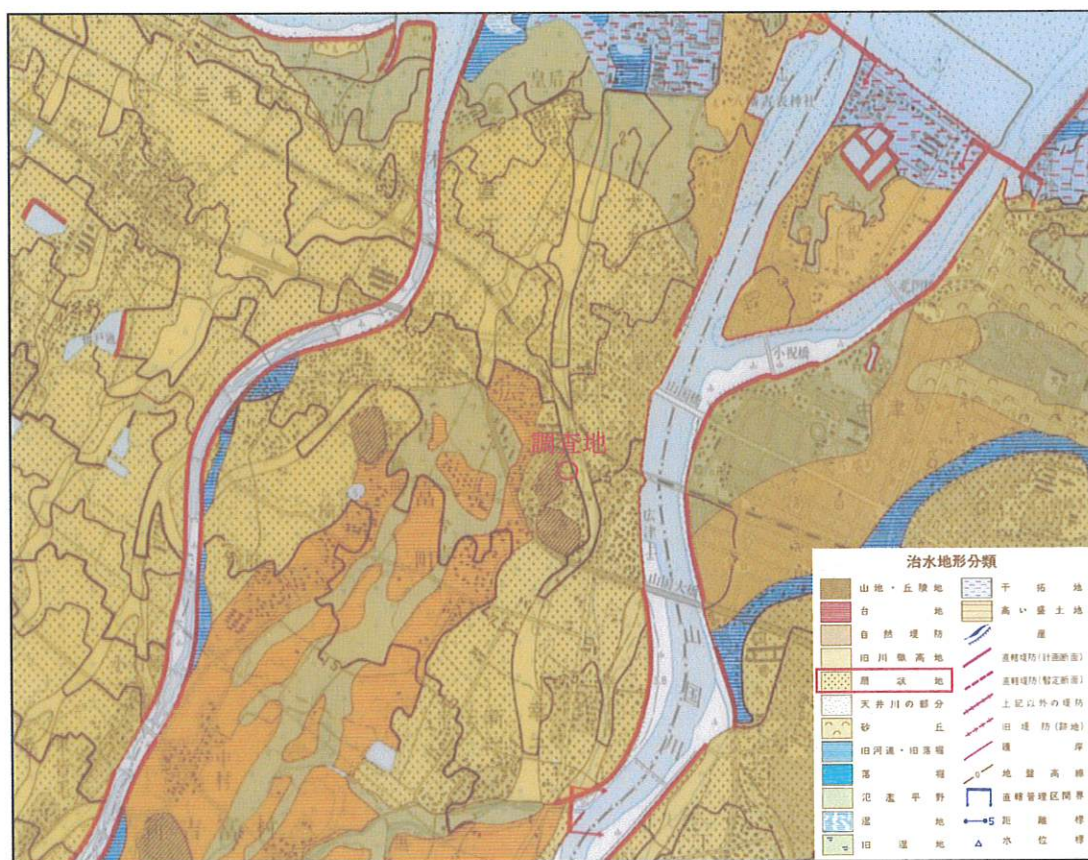


図3-1 地形分類図

4. 敷地調査チェックリスト

九州探泉株式会社

■敷地調査チェックリスト

調査件名	吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室 建築基本・実施設計		
調査場所	福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3		
調査日	2014年11月29日	天 候	晴
調査機械	半自動式	試 験 者	中島 剛

敷地周辺地形	地形種別	☐ 山地 ☐ 崖錐・崩積土 ☐ 台地・段丘 ☐ 丘陵 ☐ 谷底低地 ☐ 扇状地 ☐ 埋積谷 ☒ 沖積低地 (☐ 自然堤防 ☐ 三角州 ☐ 後背湿地 ☐ 旧河道) ☐ 海岸平野 (☐ 砂州 ☐ 潟湖跡) ☐ 人工地形 (☐ 埋土地 ☐ 干拓地 ☐ 盛土地) ☐ その他 ()		
	敷地利用状況	☐ 宅地 (既存建物 ☐ 有・ ☐ 無) ☐ 水田 ☒ 畑 ☐ 駐車場 ☐ 荒地 ☐ その他 ()		
敷地状況	宅地造成	☐ 切土 ☒ 盛土 (0.30m~1.30m) ☐ 切土盛土 ☒ 造成経過年数 (10年以上) ☐ 既存建物解体後 ()		
	敷地前歴	☐ 宅地 (既存建物 ☐ 有・ ☐ 無) ☐ 水田 ☒ 畑 ☐ 駐車場 ☐ 荒地 ☐ 沼地 ☐ 雑木林 ☐ その他 () ☐ 不明		
	擁壁	東側 ☐ 有・ ☒ 無	構造	☐ RC造 (L型・逆T型) ☐ 間知ブロック造 ☐ 間知石 ☐ 石積 ☐ その他 ()
		西側 ☐ 有・ ☒ 無	構造	☐ RC造 (L型・逆T型) ☐ 間知ブロック造 ☐ 間知石 ☐ 石積 ☐ その他 ()
		南側 ☐ 有・ ☒ 無	構造	☐ RC造 (L型・逆T型) ☐ 間知ブロック造 ☐ 間知石 ☐ 石積 ☐ その他 ()
北側 ☒ 有・ ☐ 無		構造	☒ RC造 (L型・逆T型) ☐ 間知ブロック造 ☐ 間知石 ☐ 石積 ☐ その他 ()	
敷地周辺状況	隣接地 ※高低差は 調査地を±0 とする	東側 ☒ 宅地 ☐ 水田 ☐ 畑 ☐ 道路 ☐ 荒地 ☐ その他 () 高低差 (±0.00m) 西側 ☐ 宅地 ☐ 水田 ☐ 畑 ☐ 道路 ☐ 荒地 ☒ その他 (里道) 高低差 (±0.00m) 南側 ☒ 宅地 ☐ 水田 ☐ 畑 ☐ 道路 ☐ 荒地 ☐ その他 () 高低差 (±0.00m) 北側 ☒ 宅地 ☐ 水田 ☐ 畑 ☐ 道路 ☐ 荒地 ☐ その他 () 高低差 (-1.00m~-1.30m)		
	構造物異常	建物異常 ☐ 有・ ☒ 無 ☐ 壁・基礎亀裂 ☐ 土間・外構の損傷 ☐ その他 ()		
		擁壁異常 ☐ 有・ ☒ 無 ☐ 亀裂 ☐ 沈下 ☐ はらみ出し ☐ その他 ()		
		道路異常 ☐ 有・ ☒ 無 ☐ 亀裂 ☐ 凸凹 ☐ 波打ち ☐ その他 ()		
		その他 ☐ ブロック塀の亀裂 ☐ 水路異常 ☐ その他 ()		
搬入状況	搬入路	最小道路幅員 (5.0m) 高さ障害 ☐ 有・ ☒ 無 その他 ()		
	搬入障害物	☐ 有・ ☒ 無 ☐ 塀 ☐ 金網 ☐ 門柱 ☐ 生垣 ☐ その他 ()		
調査状況	地下水位	GL- (1.10m) ☐ 見あたらず ☐ 不明		
	地盤中の瓦礫	☐ 多い ☒ 少ない		
	地表面の状況	☒ 平坦 ☐ 突起 ☐ 傾斜 ☒ 黒ボク・腐植土 ☐ 有・ ☒ 無		

(特記事項)

5. 調 査 結 果 と 記 録

九 州 探 泉 株 式 会 社

* スウェーデン式サウンディング試験記録表

この試験では、荷重毎の貫入量及び100kg荷重時の貫入停止後の半回転数を記録し、そしてその試験記録を基に地盤の強さを表す推定N値を記入しているものである。

* スウェーデン式サウンディング試験結果表

横軸に荷重及び半回転数を、縦軸に深さを記したグラフである。最も経済的に、又荷重にも耐えられる良い地盤とは、なるべく上部で横一線に記しているようなグラフであり、反対に悪い地盤とは、自沈部及び低N_{sw}値に於いて縦一直線に下がっているようなグラフである。

* 調 査 結 果

No. 1 地点 上部GL～-1.77mまで砂質土、その下部には-1.96mまで礫質土が分布する。

軟弱な自沈層は上部GL～-0.65m間、-1.00m～-1.14m間、-1.25m～-1.77m間に於いて確認される。

No. 2 地点 上部GL～-2.02mまで砂質土、その下部には-2.20mまで礫質土が分布する。

軟弱な自沈層は上部GL～-0.35m間、-1.25m～-2.02m間に於いて確認される。

No. 3 地点

上部GL～－1.00mまで砂質土、その下部には－1.01mまで礫質土が分布する。

軟弱な自沈層は上部GL～－0.62m間に於いて確認される。

No. 4 地点

上部GL～－1.61mまで砂質土、その下部には－1.70mまで礫質土が分布する。

軟弱な自沈層は上部GL～－0.35m間、－0.50m～－1.05m間、－1.50m～－1.61m間に於いて確認される。

スウェーデン式サウンディング試験記録

No. 1

調査名 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基本・実施設計

天 候 晴

調査地点 福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3

標 高 -0.61m

調査年月日 平成 26 年 11 月 27 日

地下水位 無

作業時間 (開始) 8時00分 (終了) 12時00分

調査責任者 中 島

荷重 Wsw Kgf {N}	半回転数 Na (回)	貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	1m当りの 半回転数 Nsw	推定N値	長期許容地耐力		推定地質
						トン (t/m ²) 公式(0.8×N)使用	キロニュートン (kN/m ²) (9.8×t/m ²)	
0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00	
5	0	0.12	12	0	0.1	0.1	0.78	砂質土
15	0	0.13	1	0	0.3	0.2	2.35	砂質土
25	0	0.15	2	0	0.5	0.4	3.92	砂質土
50	0	0.21	6	0	1.0	0.8	7.84	砂質土
75	0	0.30	9	0	1.5	1.2	11.76	砂質土
100	0	0.50	20	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	0	0.65	15	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	1	0.75	10	10	2.7	2.2	21.17	砂質土
100	2	1.00	25	8	2.5	2.0	19.60	砂質土
100	0	1.14	14	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	1	1.25	11	9	2.6	2.1	20.38	砂質土
100	0	1.50	25	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	0	1.75	25	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	0	1.77	2	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	24	1.95	18	135	11.0	8.8	86.24	礫質土
100	50	1.96	1	5000	20.0	16.0	156.80	礫質土

※ N値20以上の場合は、推定N値20と計算しております。

※ は、自沈層の地盤を表しています。

※ は、回転貫入層の地盤を表しています。

スウェーデン式サウンディング試験結果

No. 1

調査名 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基本・実施設計

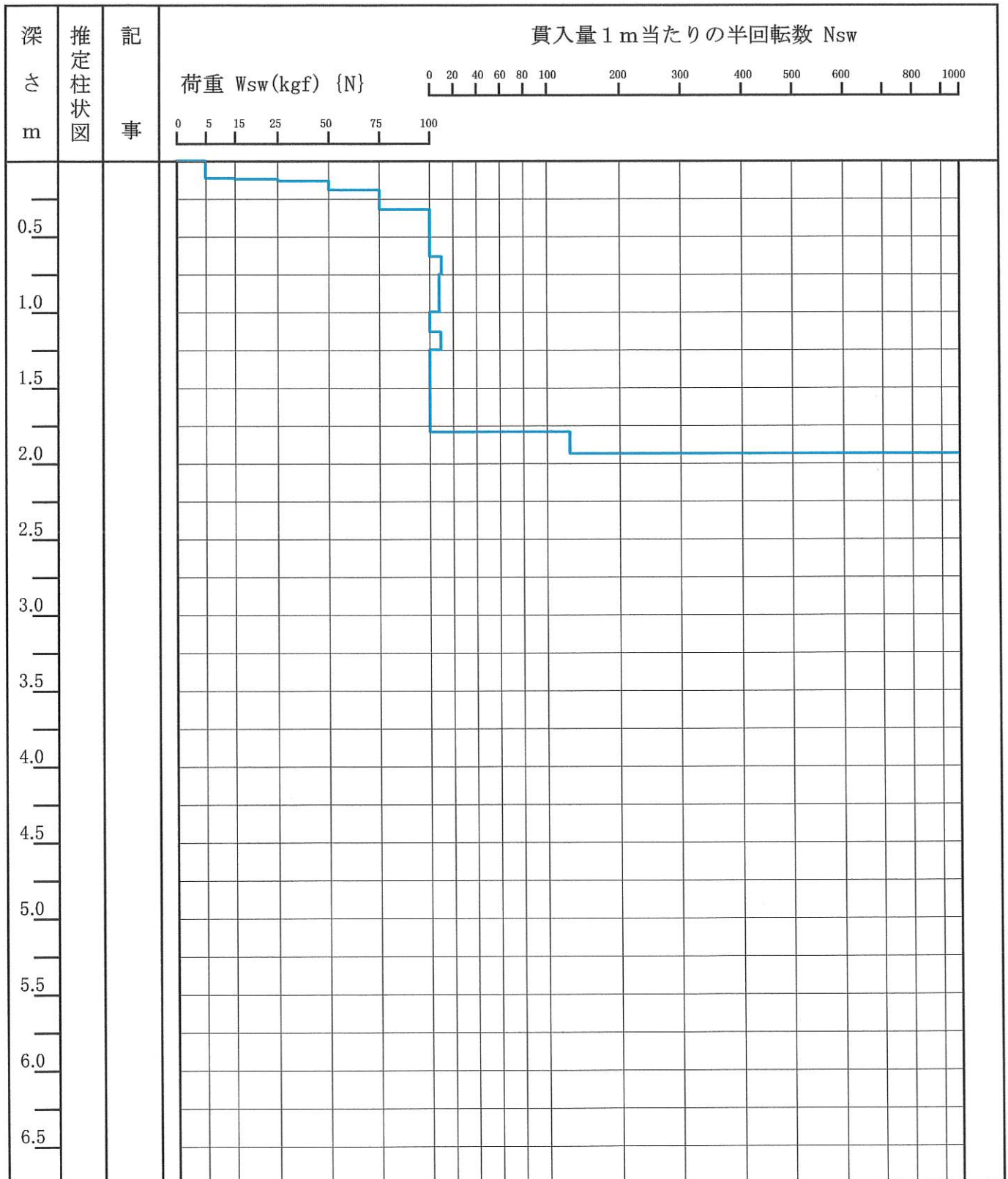
基盤($N_{sw} > 500$)上面高さ

調査地点 福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3

最終貫入深さ -1.96m

調査年月日 平成 26 年 11 月 27 日 地下水位 無

調査責任者 中 島



スウェーデン式サウンディング試験記録

No. 2

調査名 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基本・実施設計

天 候 晴

調査地点 福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3

標 高 -0.61m

調査年月日 平成 26 年 11 月 27 日

地下水位 -1.10m

作業時間 (開始) 8時00分 (終了) 12時00分

調査責任者 中 島

荷重 Wsw Kgf {N}	半回転数 Na (回)	貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	1m当りの 半回転数 Nsw	推定N値	長期許容地耐力		推定地質
						トン (t/m ²) 公式(0.8×N)使用	キロニュートン (kN/m ²) (9.8×t/m ²)	
0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00	
5	0	0.09	9	0	0.1	0.1	0.78	砂質土
15	0	0.13	4	0	0.3	0.2	2.35	砂質土
25	0	0.16	3	0	0.5	0.4	3.92	砂質土
50	0	0.23	7	0	1.0	0.8	7.84	砂質土
75	0	0.29	6	0	1.5	1.2	11.76	砂質土
100	0	0.35	6	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	6	0.50	15	40	4.7	3.8	36.85	砂質土
100	8	0.75	25	32	4.1	3.3	32.14	砂質土
100	4	1.00	25	16	3.1	2.5	24.30	砂質土
100	3	1.25	25	12	2.8	2.2	21.95	砂質土
75	0	1.50	25	0	1.5	1.2	11.76	砂質土
75	0	1.75	25	0	1.5	1.2	11.76	砂質土
75	0	2.00	25	0	1.5	1.2	11.76	砂質土
100	0	2.02	2	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	8	2.19	17	47	5.1	4.1	39.98	礫質土
100	50	2.20	1	5000	20.0	16.0	156.80	礫質土

※ N値20以上の場合は、推定N値20と計算しております。

※ は、自沈層の地盤を表しています。

※ は、回転貫入層の地盤を表しています。

スウェーデン式サウンディング試験結果

No. 2

調査名 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基本・実施設計

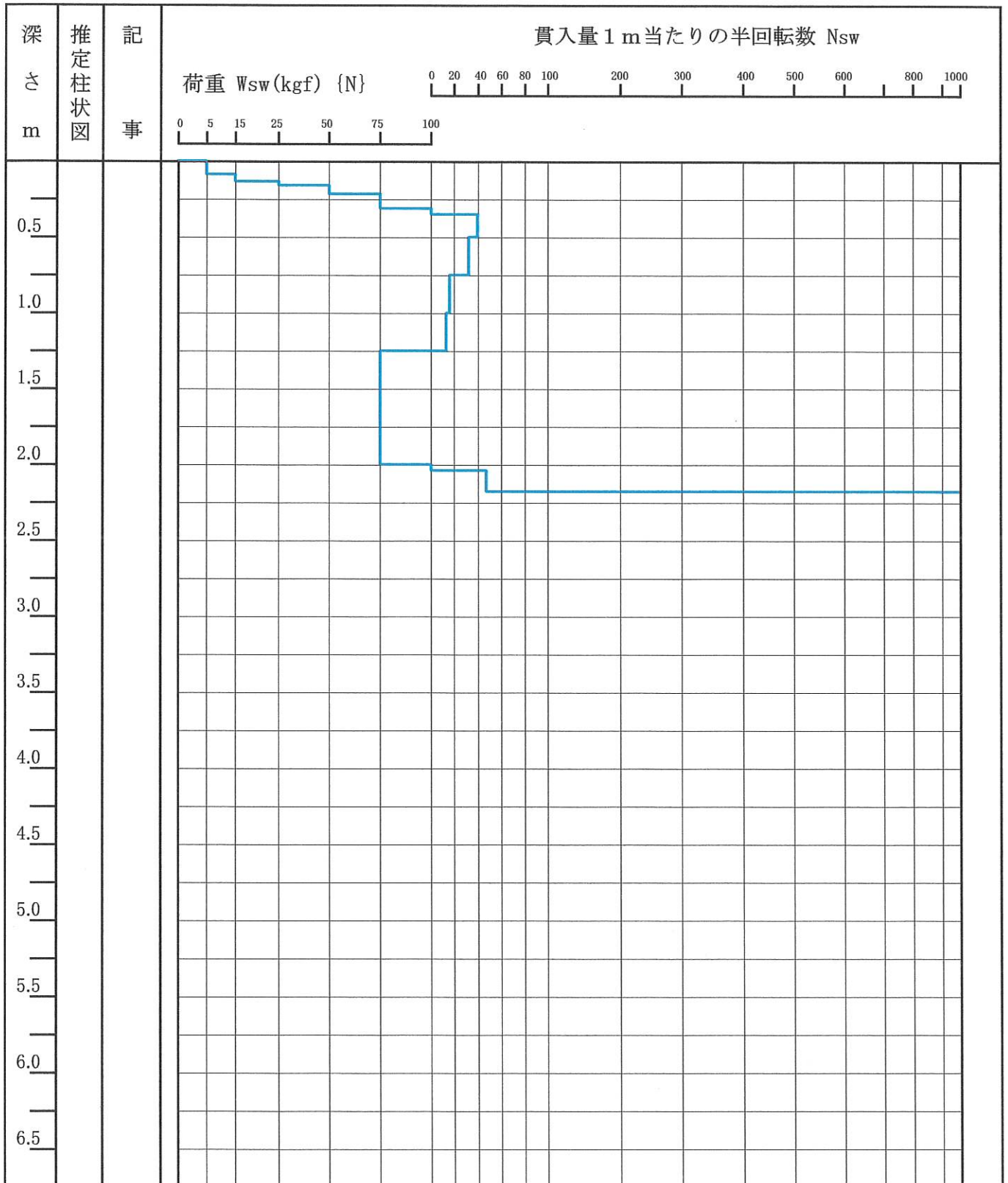
基盤($N_{sw} > 500$)上面高さ

調査地点 福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3

最終貫入深さ -2.20m

調査年月日 平成26年11月27日 地下水位 -1.10m

調査責任者 中島



No. 3

調 査 名 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基本・実施設計

天 候 晴

調査地点 福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3

標 高 -0.62m

調査年月日 平成 26 年 11 月 27 日

地下水位 無

作業時間 (開始) 8時00分 (終了) 12時00分

調査責任者 中 島

[illegible]

※ N値20以上の場合は、推定N値20と計算しております。

※ は、自沈層の地盤を表しています。

※ は、回転貫入層の地盤を表しています。

スウェーデン式サウンディング試験結果

No. 3

調査名 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基本・実施設計

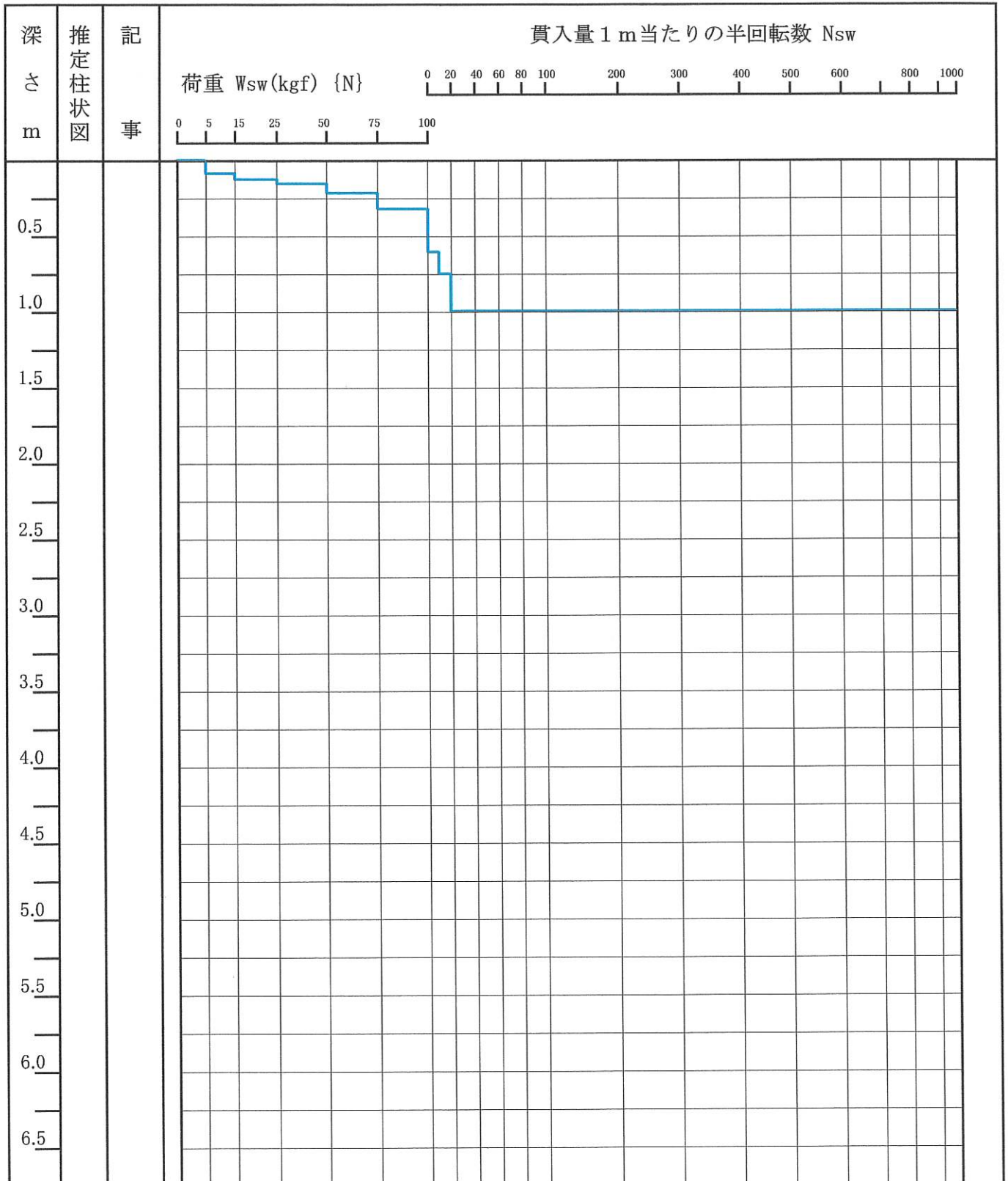
基盤($N_{sw} > 500$)上面高さ

調査地点 福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3

最終貫入深さ -1.01m

調査年月日 平成26年11月27日 地下水位 無

調査責任者 中島



スウェーデン式サウンディング試験記録

No. 4

調査名 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基本・実施設計

天 候 晴

調査地点 福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3

標 高 -0.58m

調査年月日 平成 26 年 11 月 27 日

地下水位 無

作業時間 (開始) 8時00分 (終了) 12時00分

調査責任者 中 島

荷重 Wsw Kgf{N}	半回転数 Na(回)	貫入深さ D(m)	貫入量 L(cm)	1m当りの 半回転数 Nsw	推定N値	長期許容地耐力		推定地質
						トン (t/m ²) 公式(0.8×N)使用	キロニュートン(KN/m ²) (9.8×t/m ²)	
0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00	
5	0	0.11	11	0	0.1	0.1	0.78	砂質土
15	0	0.14	3	0	0.3	0.2	2.35	砂質土
25	0	0.17	3	0	0.5	0.4	3.92	砂質土
50	0	0.25	8	0	1.0	0.8	7.84	砂質土
75	0	0.32	7	0	1.5	1.2	11.76	砂質土
100	0	0.35	3	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	15	0.50	15	100	8.7	7.0	68.21	砂質土
100	0	0.75	25	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	0	1.00	25	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	0	1.05	5	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	2	1.25	20	10	2.7	2.2	21.17	砂質土
100	1	1.50	25	4	2.3	1.8	18.03	砂質土
100	0	1.61	11	0	2.0	1.6	15.68	砂質土
100	16	1.69	8	200	15.4	12.3	120.74	礫質土
100	50	1.70	1	5000	20.0	16.0	156.80	礫質土

※ N値20以上の場合は、推定N値20と計算しております。

※ は、自沈層の地盤を表しています。

※ は、回転貫入層の地盤を表しています。

スウェーデン式サウンディング試験結果

No. 4

調査名 吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室
建築基本・実施設計

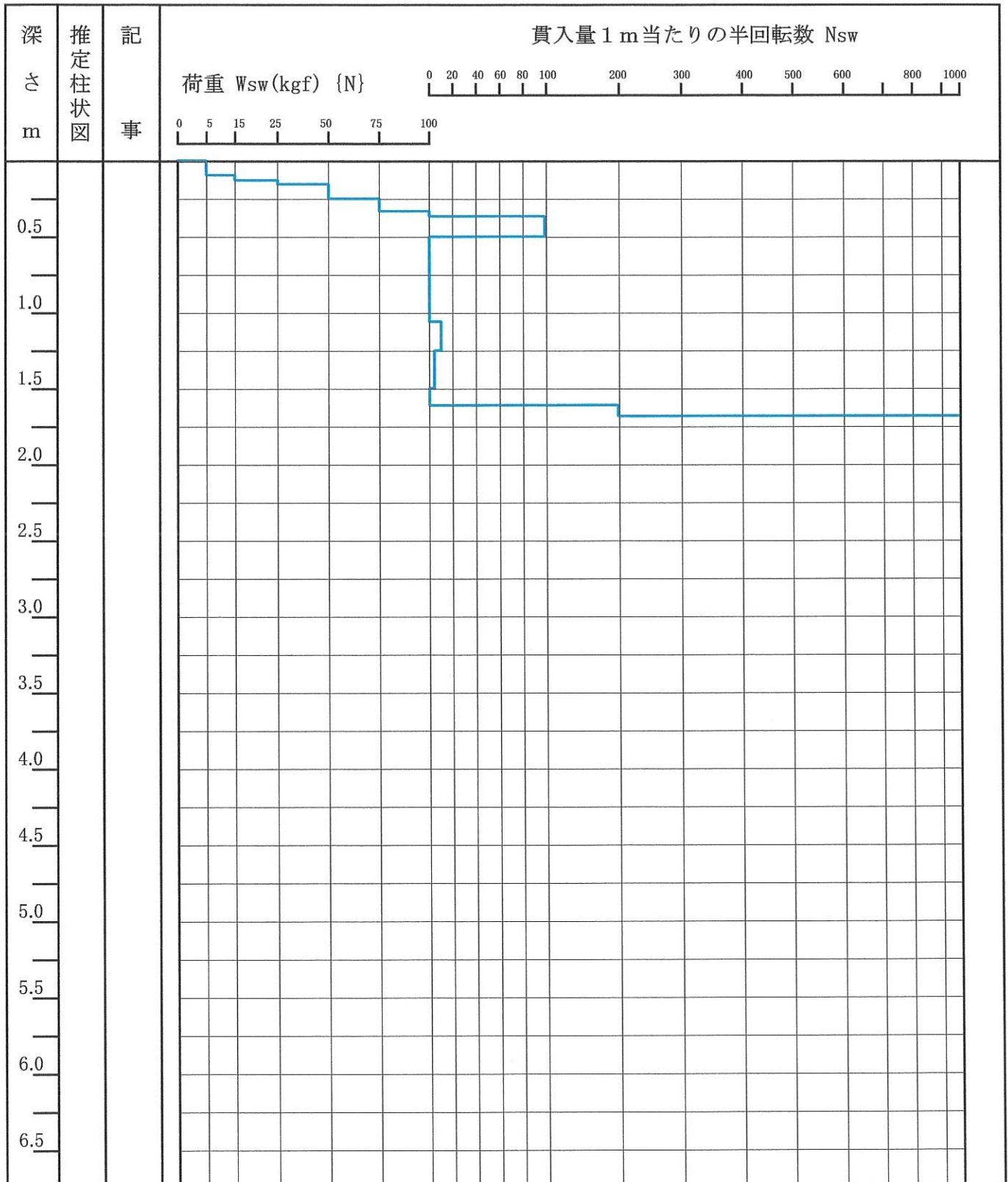
基盤($N_{sw} > 500$)上面高さ

調査地点 福岡県築上郡吉富町大字広津640-1の一部、640-3

最終貫入深さ -1.70m

調査年月日 平成26年11月27日 地下水位 無

調査責任者 中島



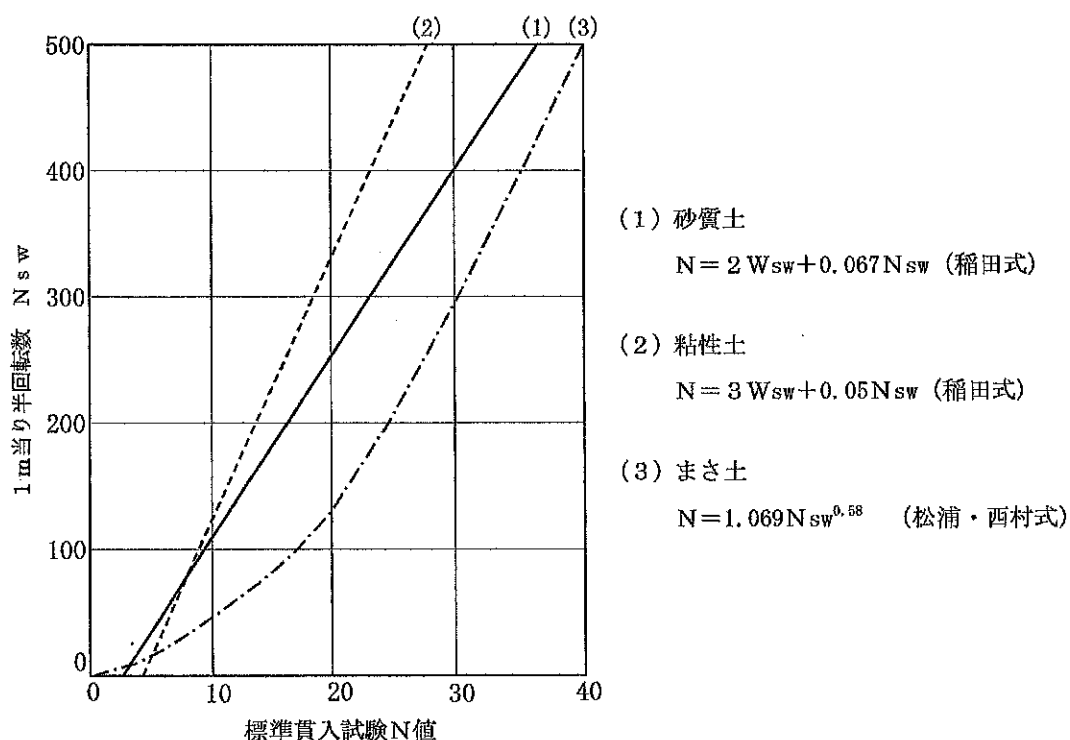
6. N_{sw} とN値の関係

* 使用算式：前添付の試験表の N_{sw} より、地盤の締まり具合を示す推定N値は下表公式より導きだされる。

N_{sw} 1 m毎の半回転数。
100kg荷重載荷状態での半回転数であり、数字が大きくなればなる程、硬い締まった地層と推定できる。

N値 地層の締まり具合を表す値であり、0よりの整数値で表す。通常、支持地盤となる1つの目安としてのN値の値は、粘性土で8程度以上、砂で20程度以上、砂礫で50程度以上であるといわれている。

N_{sw} とN値の関係は、次項のグラフのように表されており、N値はその下段の公式より導き出される。



7. 推定N値と地耐力の関係

地耐力とは、地盤の強さを表す数字であり、日本建築学会出版の「小規模建築物基礎設計の手引き」の中の、下の長期許容地耐力表が参考となる。

地 盤	長期許容地耐力*4 (t/m ²)	備 考	
		N 値	N _{sw} 値
土 丹 盤	30	30 以上	
礫 層	密実なもの	60	50 以上
	密実でないもの	30	30 以上
砂 質 地 盤	密実なもの	30	30~50
	中 位	20	20~30
		10	10~20
	ゆるい*1	5	5~10
	非常にゆるい*1	3 以下	5 以下
粘土質地盤	非常に硬い	20	15~30
	堅 い	10	8~15
	中 位	5	4~8
	軟らかい *2	3	2~4
	非常に軟らかい *2	2 以下	2 以下
関東ローム	硬 い	15	5 以上
	やや硬い	10	3~5
	軟らかい*3	5 以下	3 以下

[注] *1 液状化の検討を要す。

*2 過大な沈下に注意を要す。

*3 2次たい積土では長期許容地耐力2t/m²以下のこともある。

*4 短期許容地耐力は長期の1.5~2.0倍をとることができる。

さらに下のN値と長期許容地耐力の関係式も同書に記されている。

表 4-5 N値と長期許容地耐力の関係 (単位: t/m²)

地 盤 の 種 別	砂 質 地 盤	沖積粘性土	洪積粘性土	関東ローム
Dunham式	N	1.17N	—	—
(旧) 日本住宅公団社	0.8N	N	(2~5) N	3N

8. 地盤の許容応力度の算定

国土交通省告示第1113号第(二)(3)により、地盤の許容応力度を算定する。

※ 使用算定式 $q_a = 30 + 0.6 N_{sw} \text{ (KN/m}^2\text{)}$

q_a : 地盤の許容応力度
 N_{sw} : 1m当たりのロッドの半回転数 (150を超える場合は150とする。)

但し、地震時に液状化するおそれのある地盤の場合、又は、
上式を用いる場合に於いて、基礎の底部から下方2m以内の距離にある地盤のスウェーデン式サウンディングの荷重が1KN以下で自沈する層が存在する場合、若しくは基礎の底部から下方2mを超え5m以内の距離にある地盤にスウェーデン式サウンディングの荷重0.5KN以下で自沈する層が存在する場合にあっては、建築物の自重による沈下その他の地盤の変形等を考慮して建築物、又は、建築物の部分に有害な損傷、変形及び沈下が生じないことを確かめなければならない。

基礎底面から下方2m (貫入深度が2m未満の場合は最深貫入深度) 間の平均 N_{sw} は、26となり地盤の許容応力度は、45 (KN/m²) となる。

$$q_a = 30 + 0.6 \times 26 = 45 \text{ (KN/m}^2\text{)}$$

9. 基 礎 考 察

調査結果より敷地全体を見ると、地質は砂質土、礫質土が分布している。

現状地盤より 1 つの基礎工法参考例を提示すれば、深部まで貫入したNo.2地点を参考にして、深さ－2.20m程度を支持層とする独立基礎工法の検討・採用等が適当と判断される。

以 上。

10. 液状化の検討

今回行なった地盤調査は、スウェーデン式サウンディング試験であり、主として地盤の地耐力を知ることが目的とする。一般的にスウェーデン式サウンディング試験は、地下水位の測定及び地層のサンプル採取ができない為、液状化の判定に必要な地下水面の高さ・地質状況を知ることが難しく、液状化の検討には不向きとされている。

但し、簡易的な液状化の検討については、今回のように調査深度・自然地盤への貫入試験状況によれば可能な場合もある。そして今回最も深くまで貫入したNo.2調査地点の試験記録を元に簡易液状化の検討を行ったものである。

※ 参考文献 “日本建築学会：小規模建築物基礎設計指針”の P. 88～P. 90
を抜粋する。

(1) 地盤の液状化現象とそのメカニズム

『飽和状態にある粒径のそろった緩い砂質土が地震などによって揺すられた場合、砂粒子間に存在する間隙水の水圧が次第に上昇し、ついには砂粒子のかみ合わせが外れ、砂粒子は水中に浮遊した状態になる。このように、外力によってせん断力が繰返し作用し砂質土が液状化になる現象を液状化現象と呼んでいる。図は液状化のメカニズムについて模式的に順を追って表現したものである。

地震時に液状化しやすい地盤は、地下水位が高く、かつ緩く堆積した砂質地盤であり、埋立地盤など人口造成地盤や比較的最近に堆積した沖積層がそれに該当するが多い。さらに、埋立地では、砂以外のたとえばシルトや礫が多く含まれる地盤でも液状化が発生する場合があることが確認されている。』

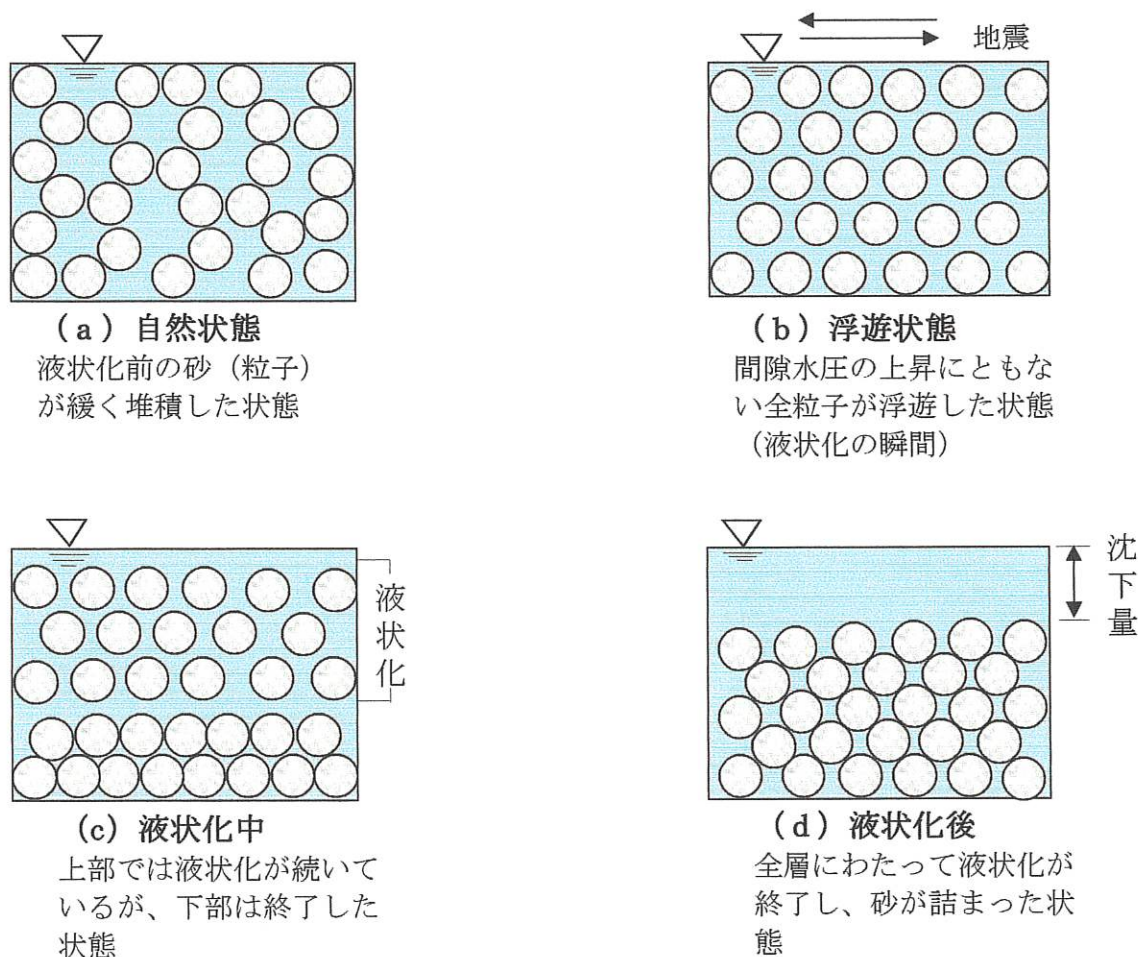


図 液状化のメカニズム

(2) 簡易判定法

『この判定法は、沖積層を対象として土質と地下水位を確認することにより、液状化によって発生する地表面の変状の程度を推定しようとするものである。具体的には、確認した土質と地下水位によって図(b)に基づき、非液状化層厚 H_1 とその下部の液状化層厚 H_2 を設定し、図(a)によって液状化の影響が地表面におよぶ程度を判定する。

図(a)は過去の地震で発生した液状化によって、その影響が地表面におよぶか否かの判定方法を示したものから、小規模建築物を対象として、地表面から深さ5mまでの範囲の、表層の非液状化層の厚さ H_1 およびその下部の液状化層の厚さ H_2 との関係によって、地表面に被害を示したものである。ここで、非液状化層とは、地下水位より浅い砂層、より浅い砂層、または、粘性土(細粒分含有率 $F_c > 35\%$ の粒度の土層)であり、液状化層とは、非液状化層下面から地表面下5mまでの砂層をいう。小規模建築物の場合、液状化による地表面の変状が建築物の被害に大きな影響をおよぼすことなどを考えれば、この判定法は、簡易判定法として推奨できるものとする。』となっている。

以下この簡易判定法に基づき判定すると次頁のごとくなる。

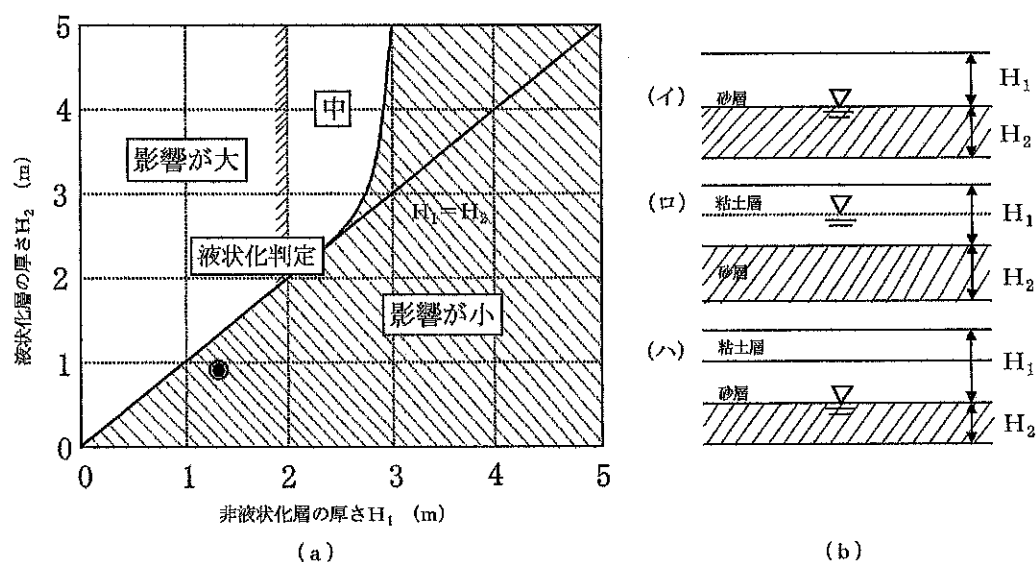


図 液状化の影響が地表面に及ぶ程度の判定 (地表面水平加速度値 200cm/s^2 相当)

※ 今回の簡易判定法ではスウェーデン式サウンディング試験中の最も深くまで貫入したNo.2地点試験結果を採用するものとする。

1) 液状化検討層

$$\begin{aligned}\text{最終貫入深度} &= \text{液状化検討層} \\ (-2.20\text{m}) &= (2.20\text{m})\end{aligned}$$

2) 液状化層 (H_2)

地下水位は、サウンディング試験結果より-1.10mである。

$$\begin{aligned}\text{液状化層} &= \text{液状化検討層} - \text{地下水位高} - \text{礫質土層} \\ \text{液状化層} (H_2) &= (2.20\text{m}) - (1.10\text{m}) - (0.18\text{m}) = (0.92\text{m})\end{aligned}$$

3) 非液状化層 (H_1)

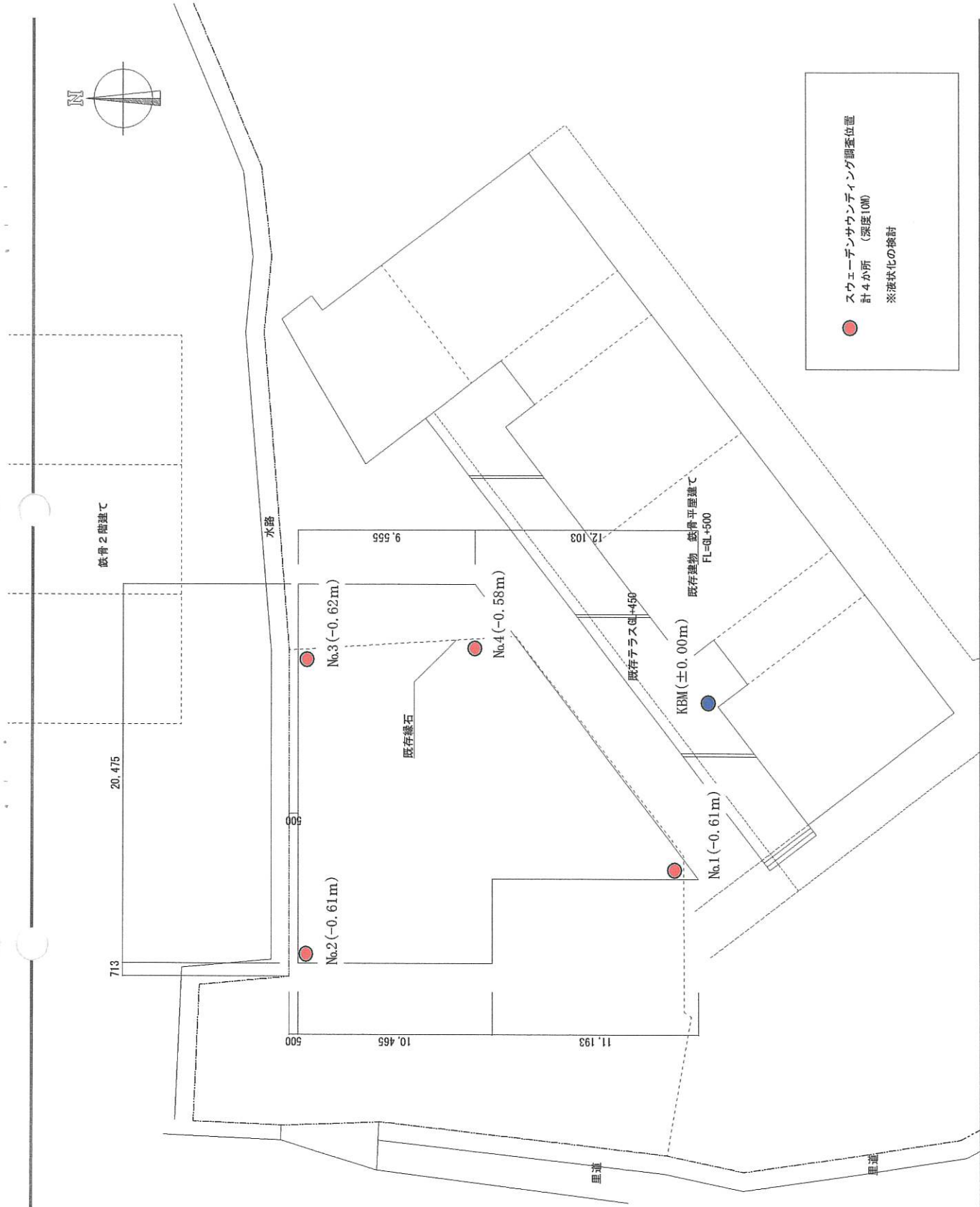
$$\begin{aligned}\text{非液状化層} &= \text{液状化検討層} - \text{液状化層} \\ \text{非液状化層} (H_1) &= (2.20\text{m}) - (0.92\text{m}) = (1.28\text{m})\end{aligned}$$

$\left\{ \begin{array}{l} H_1 = \text{非液状化層} = 1.28\text{m} \\ H_2 = \text{液状化層} = 0.92\text{m} \end{array} \right\}$ となり、前頁図 (a) では●の位置となる。

※ よって、地盤の液状化の簡易判定法では液状化の影響は“小”と判断される。

以 上。

調 査 位 置



年度	設計年月	工事名称	図面名称	縮尺	図面NO.
H26	H27.12	吉富町子育て支援センター放課後児童クラブ室棟基本設計	部分配置図	S=1/200	*-01
建築士法第20条第1項に基づく表示 有限会社 瀬口建築設計事務所 登録：大分県知事 第097-12045号 一級建築士大田 第110860号 瀬口 啓一 〒871-0013 大分県中津市金手4-7 TEL: (0979)-22-6672 FAX: (0979)-22-6005					